

地域鉄道における新駅整備等に係る財政支援について

四国部会提出

説明担当 高松市

近年、少子・超高齢社会の到来や地球規模での環境問題など社会経済情勢が大きく変化する中、地方においては、急速なモータリゼーションの進展や大規模小売店舗の郊外立地など都市機能の拡散傾向が続き、中心市街地の人口減少や商業機能の衰退・空洞化が進行するとともに、公共交通利用者の減少が顕著となっている。

このような情勢を踏まえ、高松市ではコンパクト・エコシティを標榜し、多様な交通機関が有機的に連携し、過度に自動車に頼ることなく、公共交通利用への転換を進めることにより、全ての市民が安全で快適に移動でき、環境や交通弱者にも優しい公共交通を基軸とした利便性の高い総合交通体系の構築に努めているところである。

その一環として、現在、利用者等の利便性の向上はもとより、市街地中心部への自動車の流入抑制につなげるため、幹線道路沿いでの高架による鉄道新駅の整備等に向け、鋭意、調査検討を進めている。

しかしながら、この新駅整備等には多大な事業費を要するにもかかわらず、地域鉄道の施設整備に対する国庫補助予算総額が少額であることから採択が困難な状況であり、仮に採択されたとしても、事業期間が長期間に及ぶことが予想される。

よって、国においては、今後の地方におけるコンパクトなまちづくりや公共交通利用促進等の取り組みの重要性に鑑み、地域鉄道関係予算総額の増額や新たな補助制度を創設されるよう強く要望する。